

ウメ生産農家の経営効率と改善策

[研究のねらい]

ウメ生産農家の経営では、収量や売上高において農家間差が大きいことから、今後、価格低下が進むと経営効率の低い経営の脱落が懸念されます。そこで、ウメ生産農家の経営効率を計測するとともに、経営効率に影響を及ぼしている栽培管理や経営者の意識などを明らかにします。

[研究の成果]

- ①ウメ専作経営では、経営効率の上昇に伴い10a当たり販売額、収量などが増加しています（図1）。このほかにも白干ウメへの加工率やウメの品質なども経営効率に影響しています。
- ②経営効率の高い農家グループほど元肥や石灰の施用、病害虫の適期防除、園地ごとの防除管理などの実施率が高くなります（図2）。また、経営効率の高い経営では、経営成果の比較対象として「周囲の農家」を回答する農家が多くみられます（図3）。
- ③このように、ウメ生産農家の経営効率は、単位面積当たり収量・販売額等との関係が強く、施肥・防除等の基本的な栽培管理を励行することや周囲の農家等との経営成果の比較などを通じて収益向上の意識を高めることが経営改善につながります。

[成果の活用面・留意点]

- ①ここでいう経営効率は、経営グループの実績データから効率が最大となる経営を求め、それを基準として個々の経営の効率性を評価して求めました。DEA（包絡分析）という方法で求めています。

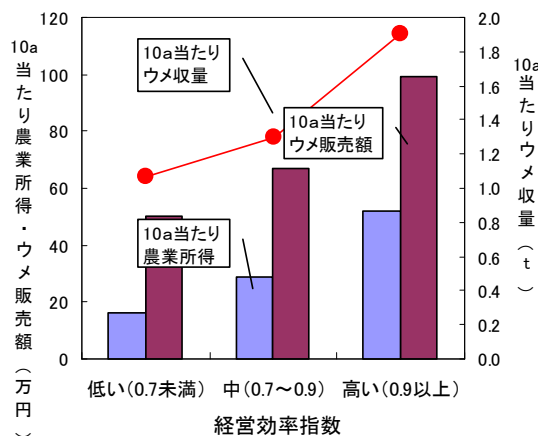


図1 経営効率と10a当たりウメ収量・販売額・所得の関係

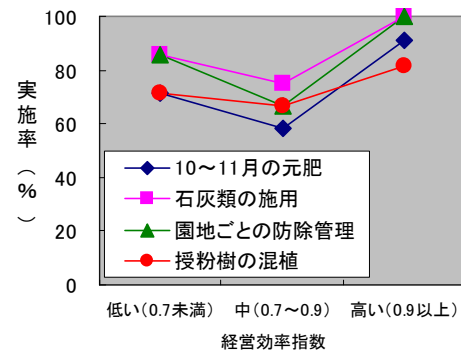


図2 経営効率と栽培管理の実施率の関係

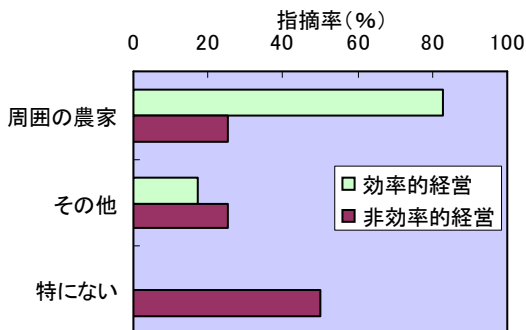


図3 効率的経営と非効率的経営の経営成果の比較対象

実施期間：平成15～17年度
担当者：辻 和良、熊本昌平